



# 活動報告

平成 14 年度

# Research Projects of the National College of Nursing, Japan in the Academic Year of 2002

Supervisor: Dr. Keiko Takeo  
(President)

## 1. CROSS-CULTURAL RESEARCH ON KEY CONCEPTS IN NURSING

Human Caring

Professor/P. Boonyanurak, Assoc. Prof./M. Ozawa, Instructor/A. Okada

## 2. A STUDY ON UNIFICATION OF EDUCATION & PRACTICE IN NURSING

Professor/T. Kameoka, Professor/K. Iino, Assoc. Prof./T. Nakayama,  
Assist. Prof./T. Matsuyama

T. Kameoka, K. Takeo : A Literature Review of the Unification of Nursing Practice, Education, and Research in the United States. *J Nurs Studies NCNJ*, 2(1), 2-9, 2003.

K. Iino, T. Kameoka, T. Matsuyama, Y. Kudoh, N. Nagao, A. Ishioka, T. Watanabe, K. Takeo : Current Status of Research Overseas on Unification between Institutions for Nursing Education and for Health Care. *J Nurs Studies NCNJ*, 2(1), 10-16, 2003.

## 3. AN INVESTIGATION INTO THE GROWTH OF PROFESSIONAL COMPETENCY

The Case of Midwifery

Professor/K. Sasaki, Assoc. Prof./T. Nakayama, Instructor/A. Itoh

## 4. DATA-BASE PREPARATION OF NURSING RESEARCH

The Data-Base of Nursing Studies Subsidized by the MHLW in between 2001~2002

Professor/F. Takeuchi, Professor/H. Komamatsu, Professor/K. Iino,  
Assist. Prof./K. Kashiwagi, Assist. Prof./K. Nio

## 5. THE DEVELOPMENT OF TEACHING MATERIALS IN NURSING

Video-Tape : Music Therapy in Child Nursing

Professor/H. Komamatsu, Assist. Prof./T. Yamada, Instructor/M. Sagawa

# 平成 14 年度 国立看護大学校看護研究プロジェクト

統括 大学校長 竹尾恵子

## 1. 看護に関する主要概念の国際比較

「ヒューマン・ケアリングについて」

ブアングラット・ブーニャヌラク(教授), 小澤三枝子(助教授), 岡田彩子(助手)

## 2. 看護における教育と実践のユニフィケーションに関する研究

亀岡智美(教授), 飯野京子(教授), 中山登志子(助教授), 松山友子(講師)

1) 亀岡智美, 竹尾恵子: 米国における看護実践・教育・研究のユニフィケーションに関する文献の概観, 国立看護大学校研究紀要, 2(1), 2-9, 2003.

2) 飯野京子, 亀岡智美, 松山友子, 工藤快枝, 長尾信子, 石岡明子, 渡辺輝子, 竹尾恵子: 海外における看護学教育機関と保健医療機関の連携に関する研究の現状 国立看護大学校研究紀要, 2(1), 10-16, 2003.

## 3. 看護の専門能力育成に関する研究

「助産師の専門能力について」

佐々木和子(教授), 中山登志子(助教授), 伊藤愛子(助手)

## 4. 看護研究データ・ベースの作成

「2001～2002 年, 厚生労働省看護研究助成による  
国立病院・療養所看護研究データ・ベースの作成」

竹内文生(教授), 駒松仁子(教授), 飯野京子(教授), 柏木公一(講師), 仁尾かおり(講師)

## 5. 看護教育教材の開発

「小児看護における音楽療法の導入」

駒松仁子(教授), 山田 巧(講師), 佐川美枝子(助手)

# 平成 14 年度 国立看護大学校研修部活動報告



研修部長 西尾 和子

平成 14 年度に研修部が行った研修は、表 1 の通りである。内容は、政策医療的な視点に加え、平成 13 年度の研修ニーズ調査(国立看護大学校研究紀要 1(1)に掲載)を参考に計画した。

1. 重症心身障害児(者)看護研修には、重症心身障害政策医療ネットワークの各施設から計 67 名(うち、教官 2 名)の参加を得た。研修の企画・運営に際しては、国立精神・神経センター武蔵病院看護部の全面的な協力を得たこともあり、研修参加者の研修ニーズを満たし、多くの方に感謝していただけの研修となった。研修終了時に行ったアンケート調査でも、「摂食や姿勢等、毎日行っていることの理論を細かく教えていただき、その上で体験できたので、心も頭も納得できた」「これまでなかった分野の、全国的な研修なので、多くを学べ、刺激になった。今後も続けて欲しい」「本でしか勉強できなかった分野の知識・技術を、講義や演習(体験学習)を通じて学べた。臨床に活かしていきたい」「重症心身障害児(者)看護の奥深さ、専門性を実感した」「忘れかけていたやる気が出てきた」などの感想が多くあった。今後も何らかの形でこの分野の研修を続けていくことは必要であろう。

2. 教育・指導に関する研修では、カナダ、マクマスター大学のマジュンダ教授(Basanti Majumdar 教授)を招き、PBL(Problem Based Learning)について学習した。全国から看護教官 20 名が参加し、国立看護大学校教員 20 名と一緒にグループワークを行った。外国からの講師招聘ということもあり、研修の企画・運営は学術研究委員会を中心に大学を挙げてのものであった。通訳は付いたものの、英語での講義であったため、理解が多少難しい部分もあったようだが、皆意欲的に研修を受けていた。研修終了後のアンケート調査では「主体的学習の重要性、教官が手を出しすぎないことを学んだ」「Small Group や Self-Directed Learning など、部分的に自分の担当講義で活用したい」「教育の評価について、考えさせられた」「言葉の壁がくやしかった」「大学校教員と一緒に学ぶことによ

表 1 平成 14 年度に行った研修

研修名	研修目的	期間
重症心身障害児(者)看護研修	重症心身障害児(者)の生活の質を向上させる看護(ポジショニングとリラクゼーション、摂食機能訓練、感覚運動統合・ムーブメントなど)についての知識を深め、基本的な技術を習得する	6 月 24～28 日 (5 日間)
教育・指導に関する研修 —PBL を学ぶ—	看護教官の教育・指導能力の向上を図る	7 月 15～19 日 (5 日間)
看護研究研修	施設内の看護研究において指導的役割がとれる人材を育成する	7 月 22 日～15 年 7 月 (1 年間。うち集中講義 2 週間)
「感染管理コース」 (認定看護師教育課程)	各施設において効果的な感染防止・感染管理を実現できる看護師を育成する	10 月 3 日～15 年 3 月 25 日 (6 ヶ月間)
「感染管理コース」 フォローアップ研修	感染管理に関する最新の知識を確認し、専門的な活動の充実を図る	15 年 3 月 12 日 (1 日間)

り、刺激を受けた」などの感想があった。

3. 看護研究研修には、20名(うち、教官7名)が参加した。7月～8月の集中講義(2週間)を終え、現在は自分の職場で、チューター(本学教員)の指導のもと、看護研究を行っている。平成15年7月には本学において研究発表を行い、最終的な指導を受ける予定である。皆、日々の多忙な業務を行いながら時間を捻出し、努力している様子がうかがえ、研修部としてできる限りの支援をしていきたい。

4. 「感染管理コース」認定看護師教育課程を10月に開講した。昨年度より5名定員を増やし、25名の研修生を募集した。各ナショナルセンターおよび各地方厚生(支)局の多大な協力を得て、書類選考および面接を行い、優秀な研修生が集まった。第2期生達は感染管理に対する高度で密度の高い専門教育の習得に毎日懸命に努力している。第2期生が修了するのは平成15年3月であるが、5月に実施される認定看護師認定試験に全員合格し、各施設で存分に活躍できることを期待している。

5. 「感染管理コース」フォローアップ研修を、上記研修修了生(第1期生)を対象に3月に実施した。第1期生は平成14年5月に行われた認定看護師認定試験に20名全員が合格した。現在は感染管理認定看護師として、各施設のみならず、それぞれの管内施設からのコンサルテーションを受けたり、講習会の講師として活躍している。看護関係雑誌等に活動報告や教育記事を発表している修了生もおり、研修の成果を確実に臨床に還元してくれていることを実感している。感染管理の分野では最新の知識が日々更新している現状があり、このフォローアップ研修を通じて、修了生たちが最新の知識を確認し、ますます専門性が高い看護活動を実践できるよう支援していく予定である。

平成15年度も、研修ニーズが高かったWOC看護を含め、認定看護師コースを増やすなど、政策医療を実践している看護職員を支援できるような研修を計画している。

今後とも、研修部の活動にご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

## 教員の研究活動 2002(平成 14)年 1~12 月



### 大学校長

---

[論文]

Puangrat Boonyanurak, 小澤三枝子, David R. Evans, 竹尾恵子: An investigation into nurses' behavior with regard to human caring, 国立看護大学校研究紀要, 1(1): 11-16, 2002.

[講演・学会発表]

松山友子, 工藤快枝, 石岡明子, 渡辺輝子, 飯野京子, 亀岡智美, 竹尾恵子: 海外における看護学教育機関と保健医療機関の連携に関する研究の現状, 平成 14 年 12 月 7 日発表, 第 22 回日本看護科学学会学術集会講演集, 204 頁.

### 人間科学 (情報学)

---

[著書]

柏木公一: 看護記録と電子カルテ, 電子カルテ研究会編: 電子カルテってどんなもの?, 中山書店, 140-151, 2002.

[論文]

柏木聖代, 水流聡子, 柏木公一, 美代賢吾, 西亀正之: 施設間での看護サマリーの電子的交換に関する研究—医療機関がもつ記録における看護サマリー情報の記載の状況, 医療情報学 22(2): 169-178, 2002.

[講演・学会発表]

山本千恵美, 柏木公一, 曾根伸治, 熊谷徹也, 瀬戸邦弘, 入村瑠美子, 大江和彦, 柴田洋一: バーコードを利用した輸血チェックシステム, 国立大学附属病院医療情報処理部門連絡会議医療情報システム演題論文集, 2002.

柏木公一, 大江和彦: 正確な実施記録のための注射オーダー・実施入力システムの開発とその評価, 第 22 回医療情報学連合大会: 407-408, 2002.

星本弘之, 柏木公一, 渡辺宏樹, 大江和彦: 病院情報システムのクライアントサーバメッセージの HL 7 v.3 ベースへの変換可能性の検討, 第 22 回医療情報学連合大会: 524-525, 2002.

[その他]

水流聡子, 石垣恭子, 美代賢吾, 柏木公一, 柏木聖代, 高見美樹: 医療連携の時代と看護 連携のための方法と課題 連携に必要な情報の精選と電子的手段による共有 現況と展望 病院看護と訪問看護の連携, 看護展望, 27(2): 148-152, 2002.

柏木公一: 看護記録電子化への見取り図 その課題に焦点をあてて, 看護展望, 27(6): 25-34, 2002.

### 人間科学 (心理学)

---

[論文]

鉦鹿健吉: 「うつ」に対する心理教育的カウンセリングの 3 事例—「I'm OK」「プラス思考」をキーワードにして, 国立看護大学校研究紀要, 1(1): 35-40, 2002.

### 人間科学 (語学)

---

[論文]

Rieko Matsuoka: Gender variation in compliment exchange, *Kanagawa University STUDIES in LANGUAGE* 24: 105-122, 2002.

Rieko Matsuoka: Overall analysis on a nursing course in English, *New Perspectives on ESP—Proceedings of the 30<sup>th</sup> JACET Summer Seminar, The Japan Association of College English Teachers*, 2002.

[講演・学会発表]

Rieko Matsuoka: A case study of an academic course in English, *The 30<sup>th</sup> JACET Summer Seminar, Kusatsu*, 2002.

[Book Review]

David R. Evans : 'Language and Gender' by David R. Evans in *Language Awareness* Vol : 3, 2002.

[Presentation]

David R. Evans : August 2001 'Current Issues in ELT' Seminar organised by Birmingham University in Hiroshima.

## 基礎看護学

---

[著書]

松本あき子, 重松宏 : 外科におけるクリニカルパスの導入と評価 ; 腹部大動脈瘤のクリニカルパス ; 金原出版, 245-262, 2002.

[論文]

Puangrat Boonyanurak, 小澤三枝子, David R. Evans, 竹尾恵子 : An investigation into nurses' behavior with regard to human caring, 国立看護大学校研究紀要 1(1) : 11-16, 2002.

鈴木恵子, 亀岡智美, 定廣和香子, 舟島なをみ : 在宅看護場面における看護職の行動に関する研究—保健婦とクライアントの相互行為に焦点を当てて, 看護教育学研究, 11(1) : 1-11, 2002.

横山京子, 亀岡智美, 定廣和香子, 舟島なをみ : 短期大学卒業直後に編入学した学生の学習経験—短期大学を卒業した編入生理解のための指標の探求, 看護教育学研究, 11(1) : 12-25, 2002.

三浦弘恵, 亀岡智美, 定廣和香子, 舟島なをみ : 看護職者の学習ニーズに関する研究—病院に就業する看護職者に焦点を当てて, 看護教育学研究, 11(1) : 40-53, 2002.

舟島なをみ, 定廣和香子, 亀岡智美, 鈴木美和 : 看護学教員ロールモデル行動自己評価尺度の開発—質的帰納的研究成果を基盤として, 千葉大学看護学部紀要, 24, 9-14, 2002.

Katsuya Kanda, Mieko Ozawa, Rumiko Irimura : Allocation of Nursing Time at University Hospitals in Japan, *The Journal of Nursing Studies NCNJ*, 1(1) : 17-26, 2002.

小澤三枝子, 鬼窪久美子, 西尾和子 : 厚生労働省国立病院部所管の医療施設における看護職の研修ニーズ, 国立看護大学校研究紀要, 1(1), 59-66, 2002.

小澤三枝子, 鬼窪久美子, 西尾和子 : 厚生労働省国立病院部所管医療施設の附属看護学校教官の研修ニーズ, 国立看護大学校研究紀要, 1(1), 67-75, 2002.

Matsumoto Akiko, Kanda Katsuya, Shigematsu Hiroshi : Development and implementation of a critical pathway for abdominal aortic aneurysms in Japan, *Journal of Vascular Nursing*, 20(1) 14-21, 2002.

松本あき子 : 閉塞性動脈硬化症患者の Quality of Life, *PROGRESS IN MEDICINE*, 77-84, 2002.

松本あき子, 杉本淳 : 高齢者の施設ケア, *Medical Practice*, 19(臨時増刊号) 349-355, 2002.

Takemura Yukie, Kanda Katsuya, Matsumoto Akiko, Yamagishi Manaho : Role expectations of nurses in health service facilities for the elderly, *Nurs Health Sci*, 4(3) : 73-83, 2002.

[研究報告]

石井由美子, 鎌田良子, 佐々口博子, 齋藤茂子, 松山友子 : 看護計画への患者参画の現状—全国の国立病院・療養所における調査より, 平成 13 年度国立病院・療養所共同臨床研究, 2002.

[講演・学会発表]

Tomomi Kameoka, Wakako Sadahiro, Naomi Funashima : An Analysis of The Trends in Qualitative Research in Nursing Education in Japan : From 1994 to 1998, *The Eighth Annual Qualitative Health Research Conference 2002*, Banff Conference Center, Banff, Alberta, Canada, 237, 2002.

Kyoko Yokoyama, Naomi Funashima, Wakako Sadahiro, Tomomi Kameoka, Kumiko Hongo : Exploration of Problems which Transferred Students in Baccalaureate Nursing Program Face in Japan, *The Eighth Annual Qualitative Health Research Conference 2002*, Banff Conference Center, Banff, Alberta, Canada, 237-238, 2002.

亀岡智美 : 看護職者としての歩みを支える研究継続, 日本看護教育学会第 12 回学術集会講演集, 看護教育学研究, 11(2) : 3-4, 2002. (基調講演)

本郷久美子, 亀岡智美, 定廣和香子, 舟島なをみ : 看護学教員のロールモデル行動に関係する要因, 日本看護学教育学会第 12 回学術集会講演集, 日本看護学教育学会誌, 12 : 144, 2002.

本郷久美子, 亀岡智美, 定廣和香子, 舟島なをみ : 教員の看護に対する価値づけと看護学実習におけるロールモデル行動の両者に関係する特性の探索, 第 33 回日本看護学会抄録集—看護教育—, 7, 2002.

亀岡智美 : 国立病院・療養所と国立看護大学校の連携—脳卒中患者に対する看護の質向上に向けて, 第 57 回国立病院療養所総合医学会, 福岡市, 47, 2002. (シンポジウム)

- 松山友子, 工藤快枝, 石岡明子, 渡辺輝子, 飯野京子, 亀岡智美, 竹尾恵子: 海外における看護学教育機関と保健医療機関の連携に関する研究の現状, 第22回日本看護科学学会学術集会講演集, 2002.
- 栗原広美, 福田千衣, 平野真知子, 水野正之: 内シャントをもつ血液透析患者の日常生活における気がかり, 第57回国立病院療養所総合医学会講演抄録集第1分冊, 93, 2002.
- 水野正之: The 28th Senior Nurse International Workshop, 国際看護交流協会, 島根, 2002, グループワークでのリソースパーソンとして参加.
- 松本あき子: 患者とつくる質問票—患者立脚型指標の意義と開発—, 財団法人日本科学技術連盟医薬データの統計解析専門コース(東京), 2002.
- 松本あき子, 菅田勝也, 重松宏: 血管障害患者の自覚的健康状態指標の開発, 脈管学, 42(9), 681, 日本脈管学会総会(東京)2002.
- [その他]
- 江向洋子: 心に残る看護, Sさんへの思い・お母さんありがとう, がん看護, 7(2):132, 2002.
- 江向洋子: 治験コーディネーターが治験内容の説明場面で用いたアプローチ, Quality Nursing, 8(7):619-624, 2002.

## 成人看護学 I

---

### [論文]

- 西尾和子, 飯野京子, 川畑安正, 山田巧, 笠岡和子: 循環器病の先端医療施設における看護研究の動向—国立循環器病センターの看護研究の分析, 国立看護大学校研究紀要, 1(1), 77-84, 2002.
- 小西敏郎, 針原康, 森兼啓太, 西岡みどり: 多施設協同病院感染症サーベイランス「JNIS」の現状, 現代医療, 34(11):150-156, 2002.
- Keita Morikane, Midori Nishioka, Hisami Tanimura, Hiroe Noguchi, Toshiro Konishi, Hiroyoshi Kobayashi: Using surveillance data to direct infection control efforts to reduce surgical-site infections following clean abdominal operations in Japan, Infection Control and Hospital Epidemiology, 23:404-406, 2002.
- 山田巧: 心臓手術を受ける患者の手術決断の理由に関する研究, 国立看護大学校研究紀要, 1(1), 27-34, 2002.

### [研究報告]

- 森兼啓太, 小西敏郎, 西岡みどり, 埋田聖子, 大久保憲, 岡裕爾, 粕田晴之, 草地信也, 向野賢治, 永井勲, 西田博美, 横山隆, 小林寛伊: JNIS 委員会報告(2): 日本病院感染サーベイランスの現状, 環境感染, 17(3):289-293, 2002.

### [講演・学会発表]

- 皆川敦子, 齋藤朋子, 西尾和子: 看護単位における看護師の経験年数別構成の特徴と病棟運営への影響, 第33回日本看護学会抄録集—看護管理, 164, 2002.
- 西岡みどり: 手術部位感染サーベイランスにおけるリスク調整手法開発(3), 第8回大磯フォーラム平成13年度分科会, 2002.
- Midori Nishioka: Symposium 1 “Analyses of risk factors for developing a risk adjustment method for surgical site infections surveillance in gastric and colorectal surgeries, Japan, The 1<sup>st</sup> East Asian Conference on Infection Control and Prevention, 2002.

- 山田巧, 川畑安正, 飯野京子, 大原まゆみ, 仁尾かおり: 看護技術教育におけるVOD(video on demand)システムの評価, 第22回日本看護科学学会学術集会, 2002.

### [その他]

- 小林寛伊, 西岡みどり: 医療現場における手指衛生のためのガイドライン(草案)抜粋仮邦訳, INFECTION CONTROL, 11(3):86-91, 2002.

## 成人看護学 II

---

### [著書]

- 飯野京子: がん化学療法において看護師が役割を担うために, 渡辺享, 飯野京子編, 患者の「なぜ」に答えるがん化学療法Q&A, 医学書院, 1-4, 2002.

### [論文]

- 飯野京子, 小松浩子: 化学療法を受けるがん患者の効果的なセルフケア行動を促進する要素の分析, 日本がん看護学会誌, 16(2):68-78, 2002.



藤原千恵子, 高谷裕紀子, 高田一美, 酒井愛子, 仁尾かおり, 文字智子, 岩澤理子, 笠原葉子, 藤理沙, 藤原理恵子, 大橋由馨, 田付智子 他: 病気の子をもつ家族と小児看護を实践する看護者のストレス・コーピングに関する研究, 滋賀医科大学学長研究助成金成果報告書, 1-83, 2002.

[講演・学会発表]

丸口ミサエ: 患者・家族を精神的にサポートする立場から(シンポジスト), 第16回日本がん看護学会, 2002.

丸口ミサエ: Cancer Survivor への診療支援, 患者, 家族への支援のあり方(シンポジウム座長)第7回緩和医療学会, 2002.

丸口ミサエ: ホスピス・緩和ケア病棟の質の評価をめぐって(シンポジスト), 2002年ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会, 2002.

丸口ミサエ: ホスピスケアの原点に戻る(シンポジスト), 第83回ホスピスケア研究会, 2002.

Keiko Iino: Cancer Nursing in the Basic Curriculum of Nursing Education(Chair person), The 2nd International Seminar on Cancer Nursing, 2002.

飯野京子: 教育講演, 放射線治療における看護, 第15回日本放射線腫瘍学会学術大会, 2002.

大原まゆみ, 平井さよ子: 臨床看護師のキャリア中期における仕事の意味と発達的变化, 第6回日本看護管理学会, 2002.

仁尾かおり, 藤原千恵子: 先天性心疾患をもつ思春期の子どもの病気認知 その1—病気の受容に関する認知の側面, 第38回日本小児循環器学会学術集会, 23, 2002.

仁尾かおり, 藤原千恵子: 先天性心疾患をもつ思春期の子どもの病気認知 その2—病気のコントロールと自立に関する認知の側面—, 第38回日本小児循環器学会学術集会, 24, 2002.

仁尾かおり, 藤原千恵子: 先天性心疾患をもつ思春期の子どもの病気認知, 日本小児看護学会 第12回学術集会, 174-175, 2002.

高田一美, 文字智子, 高谷裕紀子, 藤原千恵子, 仁尾かおり: 入院している子どもを持つ家族のストレス認知に関する研究—ストレスサー得点の心理的ストレス反応への影響(1), 日本小児看護学会第12回学術集会, 128-129, 2002.

高谷裕紀子, 藤原千恵子, 高田一美, 文字智子, 仁尾かおり: 入院している子どもを持つ家族のストレス認知に関する研究—ストレスサー得点の心理的ストレス反応への影響(2), 日本小児看護学会第12回学術集会, 130-131, 2002.

高谷裕紀子, 藤原千恵子, 仁尾かおり, 星和美, 林田麗, 彦惣美穂, 古賀智影, 岩見和世, 石井京子: 4年制大学卒業看護師のキャリア形成に関する研究—キャリア測定尺度の作成, 日本看護研究学会雑誌 25(3): 226, 2002.

仁尾かおり, 藤原千恵子: 先天性心疾患をもつ思春期の子どもの病気認知—生活制限のある子どもの社会的な疎外と限界に関する認知の側面, 第49回日本小児保健学会, 368-369, 2002.

高谷裕紀子, 流郷千幸, 藤原千恵子, 仁尾かおり, 宮内環: 小児看護者の職務ストレスに関する研究(1) 職務ストレスと状況要因との関連—小児病棟の看護者の特徴, 第22回日本看護科学学会学術集会, 2002.

流郷千幸, 高谷裕紀子, 仁尾かおり, 宮内環, 藤原千恵子: 看護者の職務ストレスに関する研究(2) 職務ストレスと状況要因との関連—成人との混合病棟の看護者の特徴, 第22回日本看護科学学会学術集会, 2002.

[研究助成]

丸口ミサエ, 河正子, 田村恵子, 二見典子: ホスピス・緩和ケア病棟の質の評価に関する調査報告—Yorkshire Hospice Peer Review に関する報告, 平成13~14年度 ホスピス・緩和ケア研究振興財団.

[その他]

丸口ミサエ: 浮腫のある患者の緩和ケア, がん看護 7(4), 209-293, 2002.

丸口ミサエ: 衣類と身繕いの援助, ターミナルケア, 12(Suppl), 44-50, 2002.

飯野京子: 臨床の「なぜ」に答えるがん化学療法 Q&A, がん看護のためのブック&インターネットガイド, 看護学雑誌, 66(1), 50-55, 2002.

## 成育看護学 (小児看護学)

---

[論文]

駒松仁子, 佐々木和子, 伊藤愛子: わが国の小児看護の変遷—国立東京第一病院および国立小児病院を中心に, 国立看護大学校研究紀要, 1(1), 41-49, 2002.

駒松仁子: 近代日本小児看護の足跡—明治・大正時代の育児・小児看護の教育的基盤となる書籍をめぐって, 小児看護, 25(12), 1643-1656, 2002.

駒松仁子: 三田谷啓の思想と実践—執筆論文を中心に, 小児保健研究, 61(6), 820-829, 2002.

伊藤久美, 阿部さとみ, 込山洋美, 渡部真奈美, 長田暁子, 飯村直子, 江本リナ, 筒井真優美, 安田恵美子, 福地麻貴子, 小村三千代: 看護系大学の小児看護学実習受け入れ施設における倫理的配慮, 日本小児看護学会誌, 11(2), 7-12, 2002.

[研究報告]

谷川弘治, 稲木光晴, 駒松仁子, 稲田浩子, 石井栄一, 月本一郎, 小野正子, 米川薫, 岡田和敏, 吉田あや子, 杉谷修一, 焼山和憲, 文屋典子, 江口晴彦, 松浦和代, 鈴木智之: 小児がん治療に伴う体力低下に対する指導指針の研究, 課題番号 11610297, 平成 11 年度~平成 13 年度 科学研究費補助金(基礎研究(C) (1))研究成果報告書, 1-27, 2002 年.

[講演, 学会発表]

栗林浩子, 小村三千代, 福地麻貴子, 中林雅子, 西田志穂, 伊藤久美, 江本リナ, 込山洋美, 平井るり, 安田恵美子, 飯村直子, 筒井真優美: 小児看護学実習における大学と臨床の連携のあり方, 日本看護学教育学会第 11 回学術集会, 145, 2002.

中林雅子, 平井るり, 江本リナ, 福地麻貴子, 伊藤久美, 安田恵美子, 込山洋美, 小村三千代, 栗林浩子, 西田志穂, 飯村直子, 筒井真優美: 小児看護学実習準備としての演習モデル, 日本看護学教育学会第 11 回学術集会, 124, 2002.

西田志穂, 込山洋美, 江本リナ, 中林雅子, 栗林浩子, 伊藤久美, 小村三千代, 平井るり, 福地麻貴子, 安田恵美子, 飯村直子, 筒井真優美: 看護系大学における小児看護学実習のモデル構築への試み, 日本看護学教育学会第 11 回学術集会, 121, 2002.

小村三千代: 進行性筋ジストロフィー症の子どもへの看護師の関わり, 日本看護科学学会第 22 回学術集会, 116, 2002.

[その他]

駒松仁子: 心と心のふれあい, 刑政, 113(10), 34-39, 2002.

中林雅子, 平井るり, 安田恵美子, 江本リナ, 福地麻貴子, 伊藤久美, 込山洋美, 小村三千代, 栗林浩子, 西田志穂, 飯村直子, 筒井真優美: 小児看護学実習モデル 実習準備としての演習モデル, *Quality Nursing*, 8(9), 71-77, 2002.

栗林浩子, 小村三千代, 福地麻貴子, 中林雅子, 西田志穂, 伊藤久美, 江本リナ, 込山洋美, 平井るり, 安田恵美子, 飯村直子, 筒井真優美: 小児看護学実習モデル 大学と臨床との連携のあり方, *Quality Nursing*, 8(10), 67-72, 2002.

西田志穂, 込山洋美, 江本リナ, 中林雅子, 栗林浩子, 伊藤久美, 小村三千代, 平井るり, 福地麻貴子, 安田恵美子, 飯村直子, 筒井真優美: 小児看護学実習モデル 実習の実際, *Quality Nursing*, 8(11), 69-77, 2002.

阿部さとみ, 長田暁子, 込山洋美, 渡部真奈美, 飯村直子, 伊藤久美, 江本リナ, 筒井真優美, 安田恵美子, 福地麻貴子, 小村三千代: 看護系大学における小児看護学実習に関する臨床実習指導者の認識と課題, *小児看護*, 25(4), 522-528, 2002.

## 成育看護学 (母性看護学)

---

[論文]

佐々木和子, 駒松仁子, 伊藤愛子: 成育医療と看護(1) —成育看護学の構築を目指して, 国立看護大学校研究紀要, 1(1), 51-58, 2002.

[講演・学会発表]

佐々木和子, 森岡由起子, 伊藤愛子: A comparative study of the effects on the mental health of couples opting for the husband's attendance at childbirth and couples opting against, from pregnancy to early, 第 26 回国際助産師学会, オーストリア, 2002.

足立智昭, 佐々木和子, 中里佐知代: Evaluation of the efficacy of the Husbands' Education Programs which focuses on improving their knowledge and attitudes toward their pregnant wives, 第 25 回国際応用心理学会, シンガポール, 2002.

佐々木和子: 育児ができる親を育てるとのこと—もうすぐ父親になる「夫のための妊娠・出産ブックレット」作成の試みから, 第 43 回日本児童青年精神医学会, 2002. (シンポジスト)

廣田登志子: 看護学実習カンファレンスにおける教授活動に関する研究, *看護教育学研究*, 11(2), 12-13, 2002.

廣田登志子: 研究成果が示す看護学実習カンファレンスにおける教授活動の課題, *看護教育学研究*, 11(2), 16-17, 2002.

定廣和香子, 舟島なをみ, 廣田登志子, 亀岡智美, 松田安弘, 横山京子: 看護学実習における教授活動に関する研究—教授活動の質と教員特性との関係, 第 22 回日本看護科学学会学術集会講演集, 201, 2002.

## 精神・老年看護学 (老年看護学)

---

[論文]

Reiko Sato, Katsuya Kanda, Mitoko Anan, Shigeaki Watanuki: Sleep EEG patterns and fatigue of middle-aged and older female family caregivers providing routine nighttime care for elderly persons at home, *Perceptual and Motor Skills*, 95: 815-829, 2002.

Reiko Sato, Jukai Maeda : Changes in the sleep during prolonged bed rest in healthy young men, 大分看護科学研究, 3(2) : 29-32, 2002.

阿南みと子, 佐藤鈴子 : 男性家族介護者が ALS 患者の在宅介護を受容する要因 5 事例の面接調査, 日本難病看護学会誌, 6(2) : 157-161, 2002.

[講演・学会発表]

阿南みと子, 佐藤鈴子 : 筋萎縮性側索硬化症患者の病気の受容過程について一告知に焦点をあてて, 第 7 回日本難病看護学会学術集会(東京), 2002.

阿南みと子, 佐藤鈴子 : 筋萎縮性側索硬化症在宅介護者がもつ問題とケアニーズ—退院指導に注目して, 第 33 回日本看護学会—老年看護(千葉), 2002.

菅田勝也, 武村雪絵, 山岸まなほ, 佐藤鈴子, 松本あき子, 小川理恵 : 介護老人保健施設, 療養病棟, 有床診療所における看護職員の配置と業務実施状況, 第 22 回日本看護科学学会学術集会(東京), 2002.

林稚佳子, 横田恵子, 高間静子 : 看護職者の関係維持スキルに影響する個人の内的特性, 第 28 回日本看護研究学会, 2002.

横田恵子, 高間静子, 林稚佳子 : 看護職者の関係開始スキルと個人の内的属性との関係, 第 28 回日本看護研究学会, 2002.

## 国際看護学 (在宅看護学)

---

[論文]

松井和子 : ベンチレータ使用者の生活を支えるために必要な視点, 看護学雑誌, 66(2) : 145-150, 2002.

松井和子, 俵麻紀, 佐川美枝子 : 4 年制大学教育で修得目標とされる看護実践能力—カナダ, プリティッシュ・コロンビア州における新基準を分析して, 国立看護大学校研究紀要, 1(1) : 1-9, 2002.

鈴木浩美, 松井和子 : 手術によって容貌が変容した頭頸部がん患者の社会参加とその関連要因, がん看護, 7(2) : 161-165, 2002.

藤田あけみ, 佐藤和佳子, 岡美智代, 佐川美枝子 : 直腸癌低位前方切除患者の術後経過期間別の排便障害と自尊感情との関係について, 日本看護科学会誌, 22(2) : 34-43, 2002.

[講演・学会発表]

Kazuko Matsui, Irene Hanley, Mieko Sagawa, Maki Tawara : Respiratory care and the client's QOL with spinal cord injury and ventilator dependency by a comparative investigation between British Columbia, Canada and Japan, International Medical Society of Paraplegia & American Spinal Injury Association 1<sup>st</sup> Joint Meeting, May 4, 2002, Vancouver, BC, Canada.

北山三津子, 俵麻紀, 嶋澤順子, 安田貴恵子 : 介護体験からの学びを促す援助に関する訪問看護婦の認識, 日本地域看護学会第 5 回学術集会, 平成 14 年 6 月 23 日, 高知.

安田貴恵子, 北山三津子, 嶋澤順子, 御子柴裕子, 俵麻紀, 坂本ちより, 頭川典子 : 訪問看護師の援助活動をとおして形成された介護についての認識の実態 日本公衆衛生学会, 平成 14 年 10 月 24 日, 埼玉.

俵麻紀, 安田貴恵子, 北山三津子, 嶋澤順子, 御子柴裕子, 坂本ちより, 頭川典子 : 介護家族の介護にかかわる肯定的意識を促す訪問看護師の援助実態, 日本公衆衛生学会, 平成 14 年 10 月 24 日, 埼玉.

安田貴恵子, 北山三津子, 嶋澤順子, 御子柴裕子, 頭川典子, 坂本ちより, 俵麻紀 : 長野県内訪問看護ステーションに所属する訪問看護師の介護家族の肯定的な介護意識を高める援助の実態 長野県看護研究学会, 平成 14 年 11 月 1 日, 長野.

西川浩昭, 林啓子, 樋之津淳子, 岡美智代, 竹鼻ゆかり, 高橋真理, 佐川美枝子, 沢宮容子 : 看護研究における構造方程式モデリングの使用に関する検討—Nursing Research の分析, 第 28 回日本看護研究学会学術集会, 2002.

Mieko Sagawa, Michiyo Oka : The maintenance of modified appropriate daily weight gain in hemodialysis patients, Behavioral Medicine, Helsinki, Finland, 2002.

[その他]

Irene Hanley, 松井和子訳 : コミュニティケアへのみちのり—カナダ BC 州における地域呼吸ケアシステムとコーディネータの役割, 看護学雑誌, 66(2) : 123-125, 2002.

Irene Hanley, 松井和子訳 : ベンチレータ長期使用者のリスクマネージメント, 看護学雑誌, 66(2) : 138-139, 2002.

Irene Hanley, 松井和子訳 : 呼吸ケア講習マニュアル—気管切開ケアと人工呼吸器管理, 1-47, 2002.

## 国際看護学 (国際看護学)

---

[研究助成]

稲岡光子, 平賀恵子, 山田巧 : 開発途上国における看護基礎教育分野での看護技術移転に携わる人材育成プログラムの開発に関する研究, 平成 14 年度国際医療協力研究委託事業 課題番号 14 公—5.

## 臨床教員

---

### [著書]

中辻香邦子, 丸口ミサエ, 鎌水理恵子: ホスピス・緩和ケア病棟 終末期看護 胃がん患者の看護 中西睦子監修, 大森美津子・田村恵子編著, TACS シリーズ(6)成人看護学—終末期 KENPAKUS 社, 180-207, 2002.

### [講演・学会発表]

中原博美, 山田巧, 幸田知子: 患者が手術を受容していると判断する看護師の規準に関する研究—消化器外科病棟に勤務する看護師の場合, 日本看護学会—成人看護 I, 2002.

幸田知子, 山田巧, 中原博美: 患者が手術を受容していると判断する看護師の規準に関する研究—心臓血管外科に勤務する看護師の場合, 第 33 回日本看護学会—成人看護 I, 2002.

富岡雅代・石岡明子: ストーマリハビリテーションにおける WOC ナースの専門性に関する—考察—ストーマ外来でのケア行動を分析する, 第 11 回日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会, 2002.

幸田知子, 伊藤文子, 豊田百合子: 看護教育における臨床教員の役割—国立循環器病センターにおける臨床教員の役割, 第 1 回大阪府看護協会・大阪看護教育管理学会, 2002.

### [その他]

中辻香邦子: 内臓痛への指圧マッサージ, TENS 編集ターミナルケア編集委員会 志真泰男, 本家好文, 的場元弘編集ターミナルケア わかるできる がんの症状マネージメント II 10 月増刊号, 134-137, 140, 三輪書店, 2002.

渡邊輝子・平川浩恵・伊藤淳子: 連載講座・小児の事例検討 7 看護師の思い—困難さや悩みに焦点をあてて, 小児看護, 25(13): 1784-1789, 2002.

西海真理: 心理的サポートを必要とする親・家族のケア, 小児看護, 25(9), 1248-1253, 2002.